

2017年6月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 6月の景気判断は、「一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している」としました。前回5月の判断から変わっていません。
- 個人消費は、自動車の売行きが堅調である一方、大型店の売上動向は横ばいにとどまっています。観光は、持ち直しつつあります。この間、公共投資は増加しており、住宅投資は引続き緩やかに持ち直しています。雇用は改善傾向が続いています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、5月は小幅ではありますが7か月振りに前年実績を上回りました。とは言え、前年比+0.1%ですので、ほとんど横ばいです。弱めの基調から抜けつつあるとは、まだ言えないと思います。
- 5月の新車登録台数は、前年比+23.0%と大幅に増加しました。除く軽自動車（同+24.3%）、軽自動車（同+20.8%）ともに前年比2割以上の伸びです。モデルチェンジ車を中心に堅調な動きが続いています。個人消費の範疇には入りませんが、トラックなどの商用車も伸びています。
- 総括すると、個人消費は、車のように上向きの動きもみられるのですが、全体としては、なお横ばい圏内の動きから脱し切れていないと考えています。

■観光の動向

- 観光は、持ち直してきているように窺われます。5月のデータは、旭川空港の国際線を除き、いずれも観光の持ち直しを示す内容となっていました。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年比+3.3%と前年を上回りました。旭川空港の国際線は、5月中は便が皆無となったため、旅客数もゼロとなってしまいました。しかし、国内線は、旭川空港が同+

12.7%、稚内空港が同+8.8%、女満別空港が同+9.6%、紋別空港が同+18.3%で、4 空港全体では同+11.4%でした。国内線はビジネス客も多いのですが、こうした伸びはツアー客をはじめとする観光客が支えているのではないかと考えられます。

- 5月のホテル・旅館宿泊者数は、前年比+1.6%でした。また、旭川市内ホテルの稼働率は80.6%（前年78.0%）でした。
- 各地観光は、層雲峡地区（前年比▲0.6%）が小幅マイナスだったほか、ウトロ（同▲9.4%）が4か月連続でマイナスとなりましたが、旭山動物園（同+2.0%）、博物館網走監獄（同+22.5%）、利尻・礼文フェリー（同+7.3%）はいずれもプラスでした。
- 外国人観光客は、旭川空港への直行便がなかったことの影響もあって、中国からの来客を中心に減少しているようです。もっとも、新千歳空港発着便で訪れる外国人客も多いため、必ずしも大きく減少している訳ではないと思います。一方、足許の観光客増加を引っ張っているのは、国内客（主として道外）です。外国人客の減少を埋めるため、ホテル・旅館などが営業を強化した効果も出ているようです。

■公共投資の動向

- 5月の上川、オホーツク、宗谷の3 総合振興局における公共工事請負額は、前年比+0.2%と小幅増加しました。季節的にボリュームもかなり出ています。4月からの累計でも、同+2.0%と増加しています。内容的には災害復旧工事が多いようです。建設業界では、人手不足と相まって、各社とも繁忙な状態が続いているようです。

■住宅着工

- 4月の新設住宅着工戸数は、前年比▲0.3%と小幅減少でした。持家（前年比+22.5%）と分譲（同+57.1%）は引続き2ケタの伸びですが、貸家（同▲26.9%）は3か月連続で大幅減少です。このように住宅着工は振れが大きいのですが、緩和的な金融環境の下で、引続き緩やかに持ち直していると考えています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。4月の有効求人倍率は、旭川が0.94倍と1倍を下回ったほか、前年水準も下回りましたが、引続き高水準です。また、稚内（1.14倍）、北見（1.13倍）、網走（1.07倍）も高水準が続いています。4月の新規求人数は、旭川（前年比▲10.3%）が前年を下回りましたが、稚内（同+15.6%）、北見（同+21.3%）、網走（同+19.6%）が前年を大幅に上回りましたので、全体では前年比+0.9%と前年を上回りました。

■今後のポイント

- 公共工事の増加が当地建設業界の仕事を繁忙にさせているほか、金融緩和の効果もあって、住宅投資や民間の非居住用の建築物も増加傾向にあり、これらが当地経済にとって明るい材料になっています。また、自動車の売れ行きが堅調です。観光も持ち直しつつあります。全体としてはよい方向に向かっていると思います。
- 企業の収益が比較的良好であるほか、雇用環境も良好（〈注〉人手不足は企業にとっては悩ましい経営課題ですが、失業や賃下げなど不況特有の問題がみられていないという点で、雇用環境は良好と言えます）であるにもかかわらず、個人消費と設備投資に動意が見られないことが、道北地域の景気回復が遅れ気味となっている大きな要因です。この点、個人消費は、自動車販売の好調が続く中、大型店の売上が5月に漸く水面上に浮上してきました。この大型店売り上げの増加が一時的なものなのか、それとも持続的なものなのかが個人消費の動向を判断する大きな鍵になると思います。今しばらくデータの動きを注目したいと思います。一方、設備投資に関しては、3月短観での今年度（2017年度）の計画額が前年比▲7.8%でした。次回6月短観でこれが上方修正されるかどうかに着目したいと思います。6月短観の公表は、7月3日（月）です。

以上

景気判断の推移

公表月	日本銀行旭川事務所		日本銀行札幌支店		(参考)北海道財務局旭川財務事務所	(参考)北海道財務局北見出張所
	前回比	道北(上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内)	前回比	全道	道北(上川・留萌・宗谷総合振興局管内)	オホーツク総合振興局管内
2014年9月	→	天候要因等による振れを伴いつつ、基調的には着実に持ち直している	→	緩やかに回復している	持ち直している	消費税率引上げに伴う、駆け込み需要の反動が弱まってきており、緩やかに持ち直している
10月	→	一部に緩慢さを残しつつも、基調的には着実に持ち直している	→	↓	持ち直している	一部に弱さが残るものの、緩やかに持ち直している
11月	↓	個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している	→			
12月	→	↓	↓	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	↓	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる
2015年1月	→		→			
2月	→	↓	→	↓	↓	緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられる
3月	→		→			
4月	→	↓	→	↓	↓	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる
5月	→		→			
6月	→	↓	↑	緩やかに回復している	↓	↓
7月	→		→			
8月	公表なし				↓	↓
9月	→		→			
10月	→	↓	→	↓	↓	↓
11月	→		→			
12月	→	↓	→	↓	↓	↓
2016年1月	→		→			
2月	→	↓	→	↓	↓	一部に弱さが残るものの、緩やかに持ち直している
3月	→		→			
4月	→	↓	→	↓	↓	↓
5月	→		→			
6月	→	↓	→	↓	↓	↓
7月	→		→			
8月	公表なし				↓	↓
9月	→		→			
10月	→	↓	→	↓	↓	↓
11月	→		→			
12月	→	一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している	→	→	↓	↓
2017年1月	→	↓	→	↓		
2月	→		→			
3月	→	↓	→	↓	↓	↓
4月	→		↑	回復している		
5月	→	↓	→	↓	↓	↓
6月	→		→			



